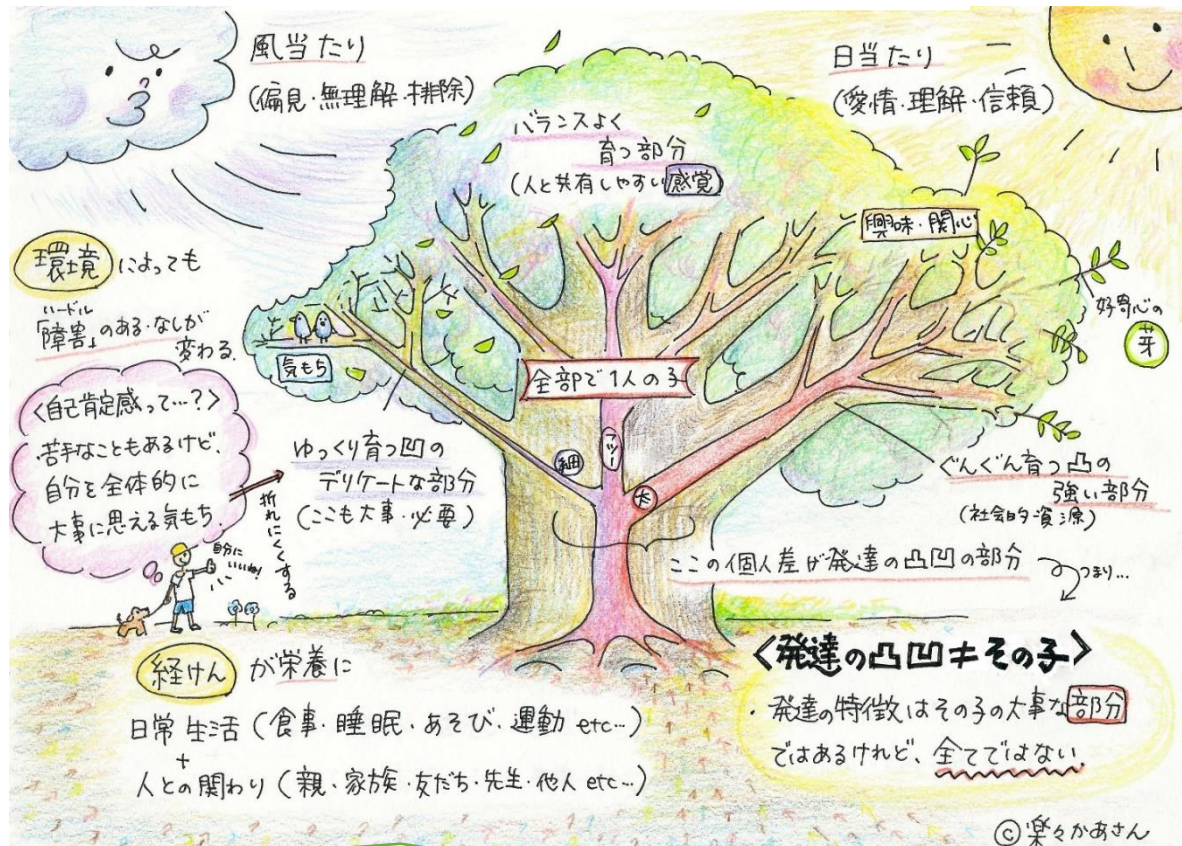


「楽々かあさん」の【ぼくの樹図】というコラムを紹介します。これを読んで、みなさんはどう感じられるでしょうか？私は、我が子も含め子ども一人一人の育ちの違いを認め、誰かと比較することなく、丸ごと受けとめる大切さについて考えさせられました。例年の夏休みよりも短くなってはしまいましたが、夏休みは、自分の時間が多く取れる期間です。子どもたちが、少しでも好奇心の芽を伸ばし、「自分らしさ」を育み、「自分を大事に思える」気持ちを感じられる豊かな時間を過ごしてほしいと思います。

ぼくの樹図 発達凸凹≠その子の全て



©楽々かあさん

「引用」：発達凸凹は、その子の個性そのもの・全てを表す言葉ではなく、一部でしかないんですね。でも、その子の全体像に結構影響しているとも感じています。だから、「発達凸凹」は、その子の個性にとっては、血管や水道管のようなものなのかも、と思って、こんな樹のイラストを描いてみました。(あくまで、私個人のイメージですので、医学的事実とは異なります) **by 楽々かあさん**

【楽々かあさん】が描く『ぼくの樹図』を紹介します。【楽々かあさん】は、人を樹図でこんな風に表示しています。

【要約】

発達の凸凹は、人が生まれつき、元々もっている生き物としての個性である。発達のための管の太さ・細さの違いによって、(その子によって、一人一人によって・・・)

- ほっといても栄養がよく届いて、勝手にぐんぐんと育つ部分
- 丁寧に育て、ケアをしながら、ゆっくりと育つ繊細な部分

のかたよりがあるので、その子特有の樹の形が次第にできてくる。＝個性
また、「発達の管」の特徴だけで決まってしまうのではなく、**経験や環境**によっても、人の育ち方は変わってくる。

だから、**日常生活や人との関わり**の中で、3食食べながら、**肯定的で豊かな経験を積むことができれば**、目には見えないけれども、それはちゃんと成長のための栄養になり、どんな形をしていても、生命力の強い樹＝人になると思う。

風当たりの強い環境に置かれたままだと、凹ばかり目立ってしまい、樹全体も不安定になって、ぐらぐらしてしまうかもしれない・・・

日当りの良い環境で、のびのびと凸や、好奇心の芽を伸ばす事ができれば、地面にしっかり根を張って、全体が倒れにくくなるかもしれない。

凸も凹も含めて、それが自分なんだと自分を認めてあげられるようになること、「自分を全体的に大事に思える気持ち」を、本当の意味での「自己肯定感」と言うのかもしれないと考えている。どんな子ども、一人一人の個性の形を大切に、その子のいる世界で、どんな子どもそのままの形で受け容れられるようになる日が、なるべく早く来るように願っている。

出典：<http://www.rakurakumom.com>

発達障がい&グレーゾーンの3兄妹を育てる母であり、Facebookなどで管理人「楽々かあさん」として育児の傍ら、発達障がい児に役立つ支援ツールの制作と日々の子育てのアイデアをシェア・情報発信する個人活動をしている方が作られた資料です。子ども達への愛情にあふれ、実体験にもとづいたわかりやすく温かい内容で、教職員、そして保護者の皆さんともぜひ共有したいと思い、ご紹介いたします。